

答

「いのちの授業」は、中学生を対象に、乳幼児やその親と触れ合う機会を通して、命の尊さや子どもを育てていくことの大切さを学ぶ学習である。愛媛県の「愛顔の赤ちゃんふれあい授業開催事業」は平成28年度で終了したため、平成29年度は6つの中学校が独自に、地域子育て支援センターや保育所などと連携しながら、乳幼児とのふれあい授業を実施している。参加した生徒からは「赤ちゃんと接することで心が優しくなった」、また教職員からは「ふだん見たことがないほど穏やかな表情で乳幼児と接している生徒の姿が見られた」など感想が出された。このような体験を通して、自分が将来親になったときの姿をイメージするなど、子どもを育てていくことの大切さや命の尊さを深く学んでいる。

「いのちの授業」は、将来に大きな影響を及ぼす体験であると考えており、今後は、できるだけ多くの中学生が乳幼児や、その親と触れ合うことができるよう、全市的な実施に向けて取り組みたい。

三好和彦議員



- (一般質問)
- 1 自殺対策について
 - 2 出口新副市長の所信について

自殺対策の取組状況と自殺対策基本計画の策定は？

問

自殺対策は、即効性のある施策はないと言われているおり、中長期的な視点に立って継続的に取り組む必要がある。支援体制の充実や、啓発活動を通じた正しい知識の提供、偏見を減らす取組、更には遺族に対する支援が必要とされているが、どのような取組が行われているのか。

また、国は、全市町村に自殺対策基本計画の策定を義務付けているが、本市は、どのような体制とスケジュールで策定を進めようと考えているのか。

答

自殺対策としては、平成27年度に策定した健康づくり計画の「心の健康」の分野において、「自分のストレス解消法を持ち、適切な休養を取りながら生活できる」、また「適切な相談先を知り、一人で抱え込まずに相談することができる」の二つを目標に掲げ、自殺者数の削減に努めている。対策としては、心の健康やうつ病などの正しい情報を提供し普及啓発を行うこと、心の相談窓口の周知を行うこと、ゲートキーパー養成講座を開催すること、高齢者の孤立を防ぐ地域づくりを進めていくことなどを掲げている。また、遺族に対する支援としては、愛媛県が保健所に専門相談窓口を設置しているほか、本市においても相談があれば保健師による支援を実施しており、必要があれば関係機関につないでいる。

自殺対策基本計画は、平成30年度中に策定したいと考えており、平成29年度から担当者データ整理などの準備を進めているので、西条保健所の自殺対策推進センターとも協議しながら策定を進めたい。

西条自民クラブ

見玉千春議員



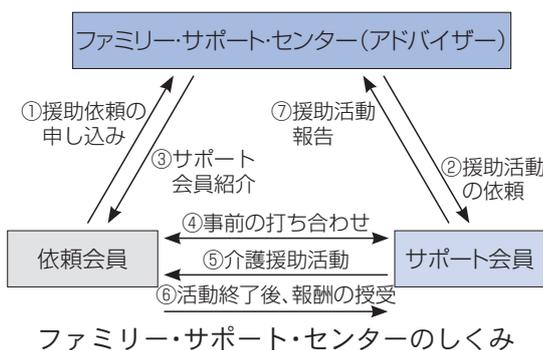
- (一般質問)
- 1 介護予防・日常生活支援総合事業について
 - 2 学校施設の長寿命化に向けた取組について

高齢者生活支援サービスの更なる充実を！

問

我が国における65歳以上の人口は年々増加しており、平成28年度末には3千400万人を超えている。更に団塊の世代が75歳を超える平成37年には、国民の約3割が65歳以上の高齢者になると予想されている。

高齢者の増加に伴い、介護を必要とする高齢者も増えることが想定され、誰もが住み



慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようにするためには、福祉サービスの提供体制を更に充実させることが必要である。

その上で、高齢者の生活支援サービスを充実させるために、現在取り組んでいる事業の機能を拡充することも一つの方法であると考えているが、食事の準備や後片付け、買い物、清掃、洗濯といった日常生活の支援のほか、話し相手や安否確認、病院への送り迎えなど、介護保険サービスでは対応できないサービスについて、今後、どのように対応していくのか。